

## こども家庭センターについて



正和会  
小林 貢 議員



▲こども家庭センターの外観

**質問** 設置から約1年が経過したが、効果や成果、課題を伺う。

**市長** これまで物理的に離れていた各機能が保健センター2階に統合され、妊娠の届出から出産、子どもに関する相談まで、切れ目のない一体的支援が可能となった。今後は、児童福祉部門が使用している家庭児

童相談システムを母子保健部門にも導入予定。相談記録の一括管理や集計が可能となり、業務の改善と効率化が図れると考えている。

### 第60回福生ほたる祭について

**質問** 今年は節目の60回となるが、昨年からの改善点を伺う。

**市長** 運営を市に移管した昨年は、

幾つかの課題が浮き彫りとなった。これを受け、①子ども向け縁日コーナーの設置②イベント会場を福生第三中学校体育館に移し、同校と第七小学校の校庭に駐車場を設置③混雑緩和対策としてホタル観賞の場の増設などを実施する。より魅力的なイベントとなるよう準備を進めたい。

## 地域防災に関する取組について



生活者ネットワーク  
三原 智子 議員



**質問** 地域防災は、災害時に地域住民がお互いに助け合う共助が重要で、消防団とともに中心となるのが自主防災組織だと考えるが、地域住民にあまり認識されていないのではとの意見もある。自主防災組織の体制や活動等の現状と、市民の認知度についてどう考えているか伺う。

**市長** 阪神・淡路大震災や東日本大震災などでも、地域の方々の自主的な活動が被災者支援に寄与しており、本市でも自主防災組織を地域防災計画に位置づけている。町会・自治会を中心に地域住民全員が防災活動に取り組む組織として、自主防災組織運営費補助金を交付するなど、

活動への支援を実施。市政世論調査では、約6割の方が「地域の共助」が防災対策や災害発生時に最も望ましいと回答しているが、地域の方々に自主防災の意識をより浸透させるためにも、総合防災訓練参加の呼びかけや、動画の配信などで認知度の向上を図りたい。

## 多摩川について学ぶ学校教育について



正和会  
小澤 芳輝 議員



▲市内を流れる多摩川

**質問** 本市は古くから多摩川との深いつながりがある。市内の小・中学校において、多摩川に関連した学習はどのように行われているか。また、その授業の狙いは何か。

**教育長** 市内の小・中学校では、多摩川に関連した学習を環境教育の一環として教育課程に位置づけ、主

に生活科や総合的な学習の時間の中で実施している。例えば、福生第四小学校では、第3学年で多摩川流域における生き物の観察などの体験的活動を行い、生態系を探究する学習を実施している。福生第三中学校では、第1学年の総合的な学習で多摩川の自然や歴史など、生徒の興味・

関心に応じた探究的な学習を行っている。福生第一中学校の特別支援学級では、ヤマメの卵をふ化させ、多摩川に放流する活動に取り組んでいる。これらの学習を通じ、多摩川の自然環境や歴史への理解を深めるとともに、多摩川との関わりを具体的に考え、表現する力を育てている。

## 下水道管の維持管理における課題等について



立憲民主党  
市川 佳樹 議員



◀マンホール定期点検の様子

**質問** 本市における下水道管の維持管理の課題等について伺う。

**市長** 老朽化対策や維持管理費の増大等、下水道事業を取り巻く環境が今後厳しさを増すと考えられるため、市は平成30年度に福生市下水道ストックマネジメント計画を策定。点検、調査、改築更新などを、計画

的かつ効率的に管理し、費用の平準化と施設の長寿命化を図っている。しかし、今後更新需要の増大など更なる課題も考えられ、経営の現状と課題の分析などを行いながら、効率的で安定的な事業運営に努めていく。

**質問** 万が一、本市で八潮市のような事故が起きた場合、被害者への

補償等はどのように行われるのか。

**都市建設部長** 基本的には、道路管理者や下水道事業者である市に国家賠償法等に基づく賠償責任が問われ、被害者からは治療費や慰謝料等の損害賠償請求が考えられるが、市では道路や下水道の賠償責任保険に加入し、万が一の事故に備えている。

## 観光振興計画の策定について



公明党  
堀 雄一朗 議員



▲現在発行している観光マップ

**質問** 観光振興計画を策定することのだが、所見を伺う。

**市長** これまでも様々な角度から魅力を発信し、観光施策を積極的に推進してきた。昨年ユネスコの無形文化遺産に登録された日本の伝統的酒造りは、本市の主要な産業のひとつであり、今後は酒蔵を基軸とした

インバウンドも期待できることから、受け入れ環境の整備等も含め、観光施策を体系的に推進することが福生市観光振興計画策定の最大の狙い。令和7年度から約2年間で方向性を具体的に決定する予定である。

### 地域コミュニティについて

**質問** 町会・自治会の活力低下が

見られる。加入推進の条例制定などを検討してはどうか。所見を伺う。

**市長** 町会・自治会は、社会構造の変化や担い手不足などが深刻化し、活動の維持が厳しい状況にある。条例については、先進自治体の成果や課題を把握するとともに、他市の動向を注視したい。

## 子育ておむつ無料定期便について



日本維新の会  
西尾 壽々斗 議員



**質問** 現行の子育て支援施策と連携させておむつ無料定期便の導入を検討する考えはあるか。

**市長** 子育ておむつの無料定期便については子育てに関する相談を受ける機会をつくる手法の1つであると認識しているが、まずは専門職による現在の対応をしっかりと継続す

ることが重要と考えるため、現時点では導入を検討する考えはない。

### リカレント教育の推進について

**質問** 社会人の学び直しやスキルアップを支援する取り組みなど、リカレント教育の推進の現状は。

**市長** リカレント教育の推進に資する取り組みとして、S&Dたまぐ

一福生中央図書館では、「ビジネス・しごと支援」コーナーを設けるとともに、図書館ホームページで資格取得や就職に関する書籍、経営や業界情報などの仕事に役立つ情報を提供するなど、市民一人ひとりの可能性をひろげ、地域全体の活性化につなげている。